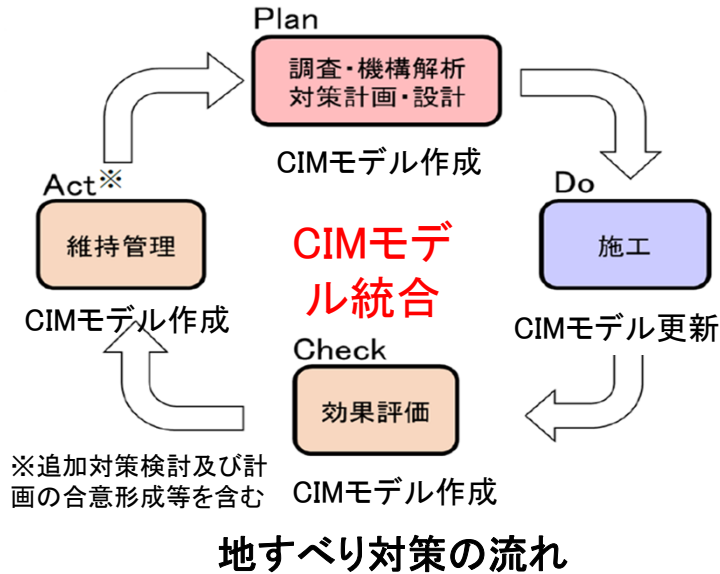


○地すべり対策では、地質調査等からすべり面や地下水面等の地中の情報を評価・検討する必要がある。  
○これまでは、平面図など2次元的な情報で調査結果を整理していたが、地すべり対策にCIMを活用することにより、地中の情報と地すべり防止施設の位置関係を3次元的に表現できるため、地すべり防止施設の配置計画の検討等、地すべり対策の各段階で効率的・効果的な対応が可能となる。

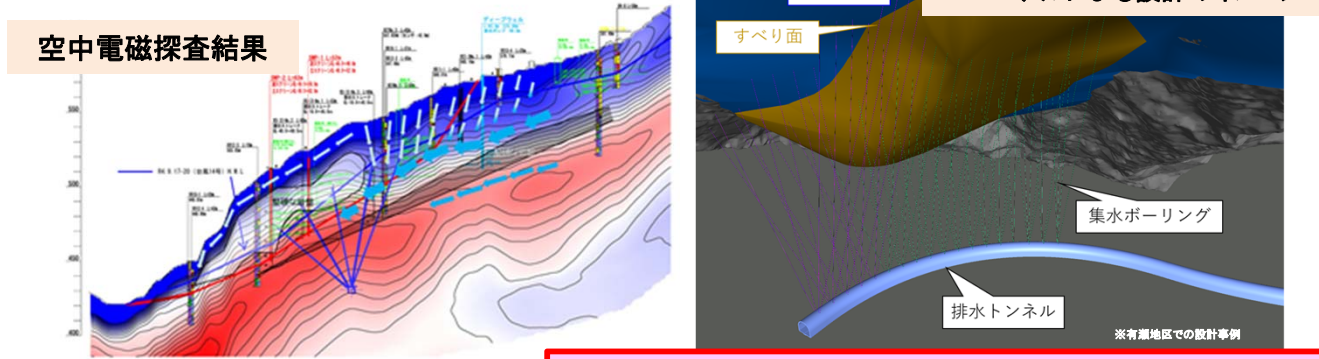
地すべり防止対策工事の計画・調査・解析・設計・施工・対策効果判定というPDCAサイクルにCIMを活用することにより、受発注者間の意思疎通の円滑化、合意形成の迅速化、情報共有の効率化、地すべり機構解析の促進等が期待できる。

地下水の3次元分布や既存施設との干渉度合いの把握、地下水位や排水量調査等のデータベースと連携した対策工効果判定、対策施設の長寿命化計画、維持管理計画への活用等が考えられる。



#### 令和4年度実施中

直轄地すべり対策災害関連緊急事業を実施している有瀬地区において、空中電磁探査を実施し、地下水の賦存状況を確認済。  
当該データをCIMモデルに反映し、排水トンネルの集水ボーリングをCIMを活用し、修正設計することで、効率的な地下水排除を目指す。



R5 CIMモデルを活用した地すべり対策工事の施工、効果検証

令和2年度

令和3年度

令和4年度

令和5年度

CIMモデルの作成・配置計画検討等  
・有瀬地区基礎データ収集整理(R4.3完)

PDCAサイクルによるCIMモデルの作成・配置計画検討等  
・有瀬地区CIMモデル作成(~R5.2)→集水Boor配置計画検討(~R5.3)→問題整理(R5.12~)

R4 既往調査等の点情報、平面・断面情報を3次元化し、地すべり対策工の設計へ活用

地すべり防止対策工事等の概略・詳細設計への活用  
・有瀬地区修正設計(~R5.4)→対策工事の実施(~R5年度末)→他地区への活用検討(R6以降)